名補佐役、大いに語る！

編集局インタビュー　⑯

―地域から認められる企業をめざしたい―

松田　芳幸（まつだ　よしゆき）

株式会社アイシーシー・サービスセンター
執行役員　営業部　部長

アイシーシー・サービスセンターからのメッセージ
お客様のお困りになっていることを、そのままにせずお教え下さい。
解決策を私達から最適のかたちで、お客様にご提案させていただきます。
（HP より）

松田さんのプロフィール
出身地：石川県能美市　　年齢：46 歳　　家族構成：妻、娘 1 人

ICC グループの中で、ネットワークソリューションとメンテナンスサービスを担う（株）アイシーシー・サービスセンターの松田部長を訪ねて約１時間のインタビューをした。
（以下、要約）

編集局　お仕事の内容を教えてください。
松　田　当社はネットワークシステムの設計構築から導入後のサポートまでをトータルで行なっている会社です。また、特定建設業（電気通信工事業・建設工事業）の県知事許可を取得しています。インフラ系が中心でソフト開発は行なっていません。
保守事業では、メーカを問わないマルチベンダ保守サービスの提供です。昔と違って様々な機器がありますから、トータルでサポートすることが必要であると思います。
ネットワークセキュリティでは、LAN の設計構築～各種サーバの構築と、セキュリティ商品の販売とサポートを行っています。
当社のような業種は常に新しい技術を習得していくことが必要です。それらをスキルアップできるよう技術教育に力をいれ、国家資格やベンダー系の資格取得を推進しています。
各分野の資格取得者も徐々に増え、自信がついてきています。

編集局　御社の強みは何ですか？
松　田　当社の強みは修理保守技術と IT インフラを中心とした技術です。特に保守においては、24 時間・365 日体制でのサービスを提供しています。
お客様には、いつでも連絡がつくという安心感を持っていただけることが大切です。即日復旧が難しくても、どういう状況であるかを確認し、明確にお客様へ伝えることが、お客様との信頼関係を深めることになります。
そういうことが、お客様との長いおつきあいに繋がるのだと思います。
以前、20 年前の機械を修理して欲しいというご依頼がありました。幸い部品も手に入り、お客様にはとても喜ばれました。若者にはできませんよ（笑）

編集局　ご趣味は何ですか？
松　田　ゴルフかな！？
生涯楽しめるスポーツが良いと思い始めました。健康のためにスポーツジムへも通っています。メタボも気になる年齢なので・・・。
冬場は近場の温泉に行ったりします。やはり温泉は癒されますからね～。
夏場は、近所の人たちと庭でバーベキューなどをしますよ。子供が小さい頃から家族ぐるみ

でお付き合いしていた人達は、地元出身ばかりでなく色々な土地の方がいます。
そういう人達と親しくするのも地域コミュニケーションとして不可欠なのではないかと思っています。
・・・というのは建て前で、気の合った仲間と楽しく飲みたいというのが本音ですかね。
家族ぐるみだと、妻へ遠慮することもないですしね（笑）

編集局　部下の方をどのように指導されていますか？
松　田　短所のことは余り言わずに、長所を伸ばすように言葉を選んでいるつもりです。
それぞれに得手不得手があると思うのでそれを見極めて指導しています。
女性も仕事と家庭を上手く両立している人が多いですよ。
今も 2 人同時におめでたです。育児休暇を終えると職場復帰してもらう予定で、その環境は整っています。

編集局　今後のビジョンをお聞かせ下さい。
松　田　今後は、法律が情報通信法として一本化されることを想定した提案が必要になってきます。当社が培ってきたコンピュータ系（情報）と LAN や電話（通信）、CATV（放送）の技術を生かして、更にスキルアップし、総合的な技術提案（コンサルから設計）ができ、地域から認められる企業をめざしたいと思います。

編集局　最後に ISA へ一言お願いします。
松　田　ISA のことは正直、よくわかっていません。実のところ今日のインタビューに関しても、よく理解していませんでした。ですが、今後機会があれば、是非色々と学ばせて頂きたいと思っています。
ISA の関連企業様には、社内ネットワークシステムでお困りのこと、強化したいことがあればぜひとも当社へお声をかけていただきたいと思います。喜んでご提案させていただきます。

＜編集局ブログ＞
社会人として東京で少し仕事をされて、Ｕターン。
今は白山市にお住まいという地元大好きの方です。
高校生の娘さんのボーイフレンドの話では、ハラハラドキドキの父親の顔で話されていました。どんな父親も年頃の娘を持つと、同じ心配をするんでしょうね～
オフコンの時代からメンテナンスに関わってこられた技術力は、エンドユーザーにはなくてはならない存在です。
「助けて～！！」のお客様からのヘルプ要請にどれだけスピーディに対応できるか？
それが CE の腕の見せ所でもあります。
20 年前の機械を使っているユーザーさんからヘルプコールがかかるのは、そういう普段の対応の良さが反映されているものと思います。
地域のエンドユーザーのために、安心できる環境を提供し続けて欲しいですね。